

信州青木村ふるさと景観100選

青木村からの東方の眺望

AOKI 青木村 議会だより

第82号

令和3年8月1日発行



発行/青木村議会
編集/議会報編集委員会
印刷/(株)アオヤギ印刷

✉ gikai@vill.aoki.nagano.jp

🌐 <http://www.vill.aoki.nagano.jp/gikai2.html>



新議会 スタート!



コロナ禍 2年ぶりの音楽会(小学校)

主な記事

青木村議会だより
第82号

- 令和3年 第1回 臨時会 2~3
- 令和3年 第2回 定例会 3~5
- 一般質問 6~14
- 議会の動き 15
- 議会日誌・住民の声 16

令和3年第1回臨時会が開催されました



議長就任挨拶

金井 とも子

このたび、5月7日の改選後初の臨時会におきまして議長に選任していただきました。

たいへん光栄に存じますとともに、責任の重大さを痛感しているところでございます。

今回の議会議員選挙は、定数を満たしたとは言え無投票となり、村民の皆様の意志が十分反映されたとは申せません。議員のなり手不足については、今後、次回改選時まで

に議会のあり方についてさらに検討を深める必要があると感じております。

現在は、新型コロナウイルスス禍により未曾有の国難であり、村を取り巻く環境はたいへん厳しいものがあります。

村では、村の皆様の生命と生活を守るため新型コロナウイルス感染症防止対策並びに、

災害対策や国道143号青木峠バイパス事業とトンネル開通後を見越しての143号の整備、企業誘致による村の活性化、道の駅あおきや五島慶太未来創造館等を中心とした観光事業の推進、人口減少と少子高齢化に対応した住民福祉の充実など多くの課題に取り組んでいます。

村の二元代表制の一翼を担う議会であり、予算や条例など村民生活に密接にかかわる重要な施策を決定する議決機関でもありますので、議会の代表として、公正かつ円滑な議会運営に全力で取り組み、村を取り巻く様々な課題の解決に向け、議会の使命を十分果たせるようそして、自立した村の持続、より良い村づくりのため、浅学非才の身では

ありますが、誠心誠意最善の努力を尽くして参りたいと存じます。

今後とも、村民皆さまのより一層のご指導とご鞭撻をお願いすると共に、村政や議会活動に対しての皆さまの声を反映させてまいりたいと存じますので、ご意見をいただきますことをお願い申し上げます。議長就任のご挨拶とさせていただきます。



5月7日、令和3年第1回臨時会が招集され、議長・副議長・各常任委員会委員等が次のとおり選任されました。
(敬称略)

◇正副議長

議長 金井とも子
副議長 松澤 正登

◇議会運営委員会

委員長 沓掛 計三
副委員長 宮入 隆通
委員 平林 幸一
坂井 弘
松澤 正登

◇常任委員会

総務建設産業委員会 (兼消防委員)

委員長 居鶴 貞美
副委員長 松澤 正登
委員 松本 淳英
平林 幸一
沓掛 計三

社会文教委員会

委員長 宮下 壽章
副委員長 坂井 弘
委員 塩澤 敏樹
宮入 隆通
金井とも子

◇一部事務組合

青木村及び
上田市共有財産組合議会

塩澤 敏樹
平林 幸一
坂井 弘
沓掛 計三

上田地域広域連合議会

松澤 正登
金井とも子

◇議会報編集委員会

委員長 宮入 隆通
副委員長 塩澤 敏樹
委員 松本 淳英
平林 幸一
坂井 弘
松澤 正登

令和3年

第2回定例会

令和3年第2回定例会は、去る6月11日に招集され、16日までの会期で行われました。提出された案件は報告事項3件、条例制定1件、補正予算1件で、慎重審議の結果、報告事項、議案とも原案のとおり可決、承認されました。一般質問では、9人の議員から村政に対する意見や質問がなされました。

村長あいさつ (要旨)

累計で日本の新型コロナウイルス感染者数は76万人、また世界の感染者数は1億7300万人(6月8日現在)と、目を覆うばかりの状況であります。未知のウイルスとの闘いの中、最前線でご尽力いただいている医療従事者の方々には、深い敬意を表します。

新型コロナウイルス感染拡大防止の切り札であるワクチン接種について、当村では集団接種を希望された65歳以上の方々1407人への2回の接種が5月23日終了しました。個別接種を希望されている皆

さんには、青木診療所で行っております。ワクチン接種がこのように早期に実現し、高齢者の皆さんに安堵していただくことができましたのも、医師会、鹿教湯病院、診療所などの関係する皆さんのご協力のおかげと深く感謝申し上げます。次のステージとして、基礎疾患のある方の接種希望についてアンケートを実施しております。7月中旬から第1回目の集団接種を実施する予定で医療機関と日程調整中です。村がすべき新型コロナウイルス感染症対策は多岐にわたります。国の地方臨時交付金

を活用し、令和2年度中に23の事業を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている村民の皆様に、いち早く、平等にそしてきめ細やかな対策を行ってまいりました。予算額2億8587万7千円に対し、年度末の支出額2億8278万8千円と執行率98・9%と、短期間に有効的な事業を実施することができました。次に、令和3年度の地方創生臨時交付金(コロナ対策事業)については、昨年度に引き続き必要とされる方々に早急に、かつ継続的に取り組みを行うため、令和

総務・建設・産業委員会 (5人)



三計掛 杏
委員



幸一 林平
委員



英淳 本松
委員



登正 澤松
副委員長



美貞 鶴居
委員長

社会・文教委員会 (5人)



とも子 金子
委員



通隆 入宮
委員



樹敏 澤塩
委員



弘 井坂
副委員長



章壽 下宮
委員長

3年度補正予算を編成し、4月1日より順次実施しております。

本年度策定をいたします第6次青木村長期振興計画についてですが、村づくりの基本的な方向性をまとめた、村の最上位計画となります。第6次については、令和4年度から令和13年度の10年間にかかる計画となります。コロナ禍の状況を踏まえる中で、国道143号青木峠バイパス事業の推進、竹内製作所の進出など、青木村にとって大きい転機となる10年になることが予想され、20年後など先々を見据えた計画の策定が必要となります。

国道143号青木峠バイパス事業の進捗状況につきましては、坑口4か所のボーリングによる地質調査を終え、昨年度から事業予算額1億8千万円で実施設計し作業に着手しているところです。地元といたしまして、今後用地買収や残土処理場所の選定など、県に協力をしてまいります。また、トンネル開通後を見越して、殿戸・村松・青木区の歩道未設置部分やバス停の早



通行止めが解除となった豆石峠(2021年7月撮影)



通行止めとなった豆石峠(2020年9月撮影)

期事業実施を要望してまいります。

青木側で地滑りが発生し、昨年来通行止めとなっていた主要地方道丸子信州新線(豆石峠)については、工事が完成し3月28日に通行止めが解除となりました。地滑り工事対策工事等は引き続き行っています。

竹内製作所を誘致する当郷地区岡石工業地整備事業につきましては、昨年11月に着工し、当初の計画を上回る進捗率で順調に進んでおります。11月末の工事完成を予定し、用地を竹内製作所様へ譲渡することとしています。

村営バスについては、昨年10月1日から平日昼間の時間帯をフルデマンド方式に変更して運行しています。利用者減が続いております。年間利用者数において、令和2年度は前年度比2.2%の増加となりました。

浅間山噴火に関係する自治体で構成する協議会から、噴火時の避難者数が公表されまいた。日頃からご交誼いただいている小諸市長に、非常時の避難者受け入れに用意があ

る旨申し出たところは是非お願いしたいとのことで、包括協定を6月17日に締結することといたしました。

青木村の夏の風物詩であり、多くの村民の皆さんが参加して行われている夏祭りは、時節柄、8月7日(土)に花火大会のみ開催します。

本会議の議案について、報告事項3件、議案2件であります。令和2年度3月専決補正予算(令和3年3月31日付専決処分)の概要について、一般会計歳入歳出それぞれ7937万1千円を追加し37億6311万3千円としました。厳しい財政運営の中、財政調整基金を取り崩したものの、3月専決処分により取り崩した同額を積み立てることができ、健全財政の維持を図ることができました。

令和3年度6月補正予算の概要については、一般会計、歳入歳出それぞれ3871万1千円を追加し、総額28億8988万2千円とします。

報告

報告第1号

専決処分の承認を求めることについて

青木村税条例、固定資産評価審査委員会条例、介護保険条例の一部改正と、令和2年度補正予算7件です。

補正予算のうち、令和2年度一般会計補正予算第7号は、歳入歳出それぞれ7937万1千円を追加し、総額を37億6311万3千円とするもので、歳入では地方交付税3億1430万円の増、基金繰入金2億2390万円の減が主なものです。歳出では、財政調整基金積立金1億5000万円の増、千曲バス青木線運賃低減バス負担金683万円の増、コロナ感染症対策工事請負費550万円の増、長野県後期高齢者医療広域連合負担金710万円の減、介護保険特別会計への繰出金715万円の減が主なものです。

令和2年度特別会計(国民健康保険、別荘事業、介護保険、後期高齢者医療)及び企業会計(簡易水道事



工事が進む中村湯本地区内道路新設工事

業、特定環境保全公共下水道事業）に関する専決処分は、主に事業実績等による係数の整理に伴う補正です。

報告第2号

令和2年度青木村土地開発公社事業報告について

令和2年度から3年度にかけて造成を行っている当郷地区岡石工業地整備事業の他、決算について報告がありました。

議案

報告第3号

令和2年度繰越明許費繰越計算書の報告について（青木村一般会計）

中村湯本地区内道路新設工事、琴山川河川整備工事、橋梁点検・長寿命化計画策定業務等、令和3年度に繰越した事業費及び財源の計算書で、議会の承認を求めらるるものです。事業費の総額は8197万6千円です。

議案第2号

令和3年度青木村一般会計補正予算について

歳入歳出3874万1千円を追加し、総額を28億8988万2千円とするもので、歳入では民生費国庫補助金455万円の増、教育費県補助金329万3千円の増、前年度繰越金2709万8千円の増、自治総合センターコミュニティ事業助成金250万円の増が主なものです。歳出では、住民福祉課関係で子育て世帯生活支援特別給付金事業費485万円の増、商工観光移住課関係で定住促進応援補助金500万円の増、建設農林課関係で入田沢区中之組沢砂防事業村道拡幅分、当郷国道北3・6号線の用地測量費、設計費として1133万円の増などが主なものです。

**議案第1号
青木村工場立地法地域準則条例について**

一定面積以上の工場立地に際して、工場立地法で定める緑地面積率20%以上を5%以上、環境施設面積率25%以上を10%以上とする条例を制定するものです。

反対討論

坂井 弘議員



議案の議決結果

○賛成 ●反対

議案	松本	塩澤	平林	宮入	坂井	松澤	金井	宮下	香掛	居鶴	結果
報告第1号 専決処分の承認を求めることについて	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	承認(全員一致)
報告第2号 令和2年度 青木村土地開発公社事業報告について	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	承認(全員一致)
報告第3号 令和2年度 繰越明許費繰越計算書の報告について(一般会計)	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	承認(全員一致)
議案第1号 青木村工場立地法地域準則条例について	○	○	○	○	●	○	—	○	○	○	可決(賛成多数)
議案第2号 令和3年度 青木村一般会計補正予算について	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	可決(全員一致)

※議長は採決に加わりません。



ワクチン接種会場となった総合体育館



1、今後の財政運営について

沓掛 計三 議員



※ 議員名の下にQRコードの読み込みで、各議員の一般質問音声データにつながります。

第2回 青木村議会定例会 一般質問

1 今後の財政運営について

(問) コロナ感染症発生からすでに1年以上たち、全世界で健康被害や経済活動に大きな打撃を受け、今だに終息も見いだせない状況である。発生後、村で実施した対策について。

村長答弁

住民の要望から給食費の無料化など子育て世代を支援してきた。令和3年度も地方創生臨時交付金があり継続して行う。また、商工業が打撃を受けたため国の補助制度に村で上乗せして支援をした。特に実情に合った支援が必要である生活困窮者・ひとり親家庭など国県の制度では不十分な方々、あるいは支援が届かない方々に注目し、支援を行った。今後コロナ禍の続くなかで、そういうことを注視して村政を担当していく。

(問) 終息していない中で今後の対策について。

村長答弁

コロナ終息までは今しばらくかかり、終息後の財政運営は、経験したことのない大変難しく、厳しいものと思われる。今後は、国県の財政支援情報収集と商工業や自営者など多くの業種との連携、交流人口の推進、竹内製作所の

早期操業、企業誘致等民間の活用など今後の財政基盤の強化が重要である。今後のコロナの対策としては、基礎疾患のある方や65歳未満の方々にもなるべく接種を急ぎたい。そして、生活困窮者への支援、売上が減少した農業、商工業への支援など山積している。コロナ終息後の世界が不透明だが、コロナ禍以前の社会、あるいは村の行政等に戻すことが最大のポイントと思う。

村長答弁

県内で工業系企業が多い市町村は財政力がよい。村税で村民に負担増を強いられない企業誘致等いかに自主財源を村外あるいは村民以外から確保するかが大きな行政課題である。

(問) 村条例により税金の軽減措置を行うようになるが、実施後の財源確保について。

村長答弁

国はコロナ対策等で借金が大きく、今後の財政が厳しくなる。村は、国県補助金の活用が大事である。また、誘致した企業が早期に操業開始できるようにすることにより村の財政も少しは緩和されると思う。

(問) コロナ禍で国からの財政支援事業で、終息後に経常経費となる事業について。

村長答弁

コロナ禍の中で、地方創生臨時交付金を有効活用した。令和3年度予算は税収が厳しい。経常経費となる事業については慎重に対応していく。また、

村民にも協力いただくことも今後でてくると思う。先立つものは財政であり慎重にしている。

村長答弁

村の財政力は県下でも低い。今後の自主財源確保が課題であり、その対策について。

(問) コロナ終息後の投資的経費や経常経費など財政運営について。

村長答弁

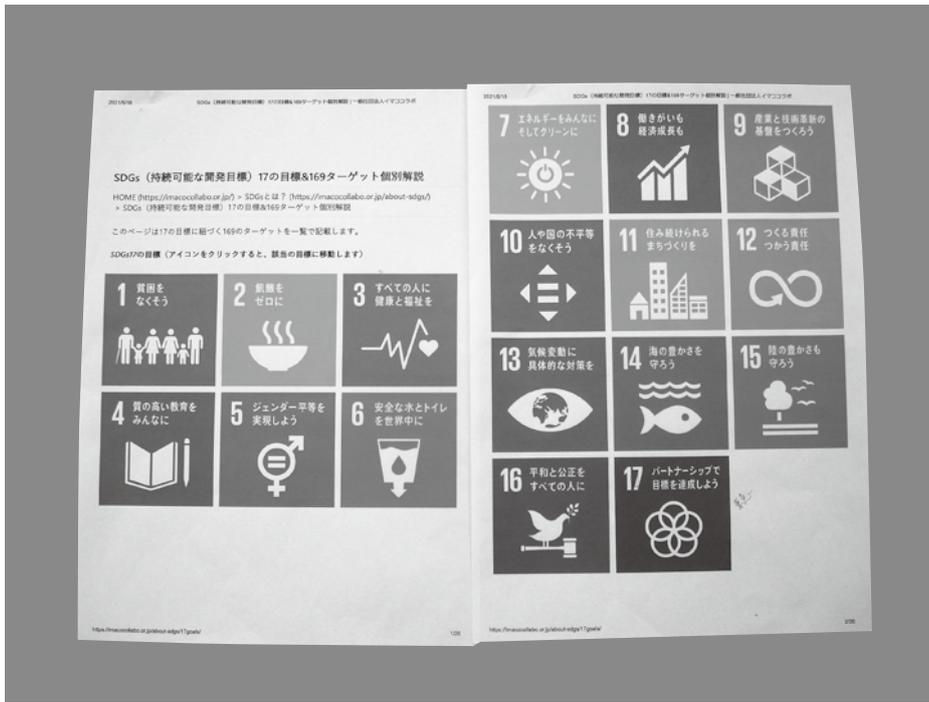
今後、高齢化に伴い高齢者福祉関連経費が多くなり、加えて今後もコロナ感染症対策関連の歳入歳出経費の継続もある。今年度作成の青木村長期振興計画では行政と村民間で議論していく。青木村は自然環境や社会環境が良い。今後は国道143号青木峠新トンネル事業や大手企業の操業も数年かと思う。財政面からも新たに期待すべき要素は多くある。今後も国県・民間の情報収集し、村民の負託に応じていきたいと考えている。



宮下 壽章 議員



1、3期目を迎えた北村村長の村政方針について
2、青木村におけるSDGsの取り組みについて



SDGs (持続可能な開発目標) 17の目標

1 3期目を迎えた北村村長の村政方針について

(問) 3期目の立候補時に青木村重点推進プロジェクトとして5項目の公約が示されていたが、具体的な説明を。

村長答弁

豊かな村づくりのため、この4年間重点的に推進したいプロジェクトで、新型コロナウイルス感染症については、ワクチン確保・接種対策と財政支援がポイントである。

国道143号青木峠バイパスの整備活用は、企業の誘致や、松本圏への通勤、通学、移住・定住の促進と、地域経済の活性化、広域のかつ連携による観光振興、また、工事については、用地の確保や、土捨て場の決定など地元の協力が必要だ。

小中学校各学年2クラスについては、学校教育の魅力の向上、企業誘致から働く場の確保をし、若い人を増やすということが課題だ。

健康寿命プロジェクトについては、健康づくりの基本的な実践プロジェクトとして、全村民の皆さんに啓蒙・啓発活動を行い、生きがいを感じてもらうことが大事と思う。

新時代創生プロジェクトは、

コロナウイルス感染症収束後や青木峠新トンネル開通後等の青木村の10年後を見据えた長期構想を作成する中で、より多くの皆さんの参画と意見を聞き、計画づくりをしていきたい。

村長答弁

新トンネル開通後は交通量も増加すると思われる。青木地区住宅街を迂回するバイパス計画は。

村長答弁

住宅街や地形上困難と思われる。交通安全施設、歩道等の整備を十分していく。

2 青木村におけるSDGsの取り組みについて

(問) SDGsは、持続可能な多様性と包摂性のある社会実現のため、2015年に国連で採択された17項目の国際目標である。青木村の将来に向けた青木村版SDGs施策は。

村長答弁

今年度第6次青木村長期振興計画を策定するが、基本的な方向をまとめた中で、SDGsとの関連性を検討していく。この持続可能で発展する村づくりの考え方は、持続可能な開発に向けての実施手段として、パートナーシップが、財政力として人口が少ない青木村には大変重要な

ことである。東急グループや、工場の誘致や雇用の創出と財政基盤の安定化に向けた竹内製作所とのパートナーシップである。また、143号青木峠新トンネル開通後は、松本や安曇野その先の高山や富山などとのパートナーシップが取れたらと期待している。

SDGsは、現在行っている施策とうまく関連性を調整する中で、村民の皆さんの協力を理解をお願いしたい。

教育長答弁

(問) 目標の4番に「質の高い教育をみんなに」とあるが、教育面でのSDGs施策は。

教育長答弁

中学校の生徒会スローガンは、Change the future(未来を変えよう)目指せ17の目標となっており、SDGsをベースにした活動を1年間通して行うことになっている。全校レクチャーを行ったり、「貧困をなくそう」を踏まえ、地域で安心して暮らせる方法を一緒に考えよう、など様々な委員会活動を進めている。今後も世界の動きや日本のあり方について注意を払い、進むべき方向を決めていく必要があると考える。



日本一住みたい村づくり



居鶴 貞美 議員

1、村政運営について



1 村政運営について

(問) 今回の選挙で村長は村政運営に2点の基本的な考え方を示している。1点目は「村の財源を増やす基盤を作る」とである。その中で財政力指数が0・2で県下で下位であり改善策を挙げている。0・3を目指して欲しい。考えを聞きたい。

村長答弁

財源の確保に努めてきた。村税の増加策として企業誘致に努力したい。国、県の補助金、交付金を受けるとともに起債を受け財政の平準化を図ることがポイントだ。ふるさと納税、五島慶太未来創造館など民間からの支援を活用することにより財政力指数の結果はついてくると思う。

(問) 2点目の「村政の課題に果敢にチャレンジする」について具体的なにはどうか。

村長答弁

向かうべき方向は見えている。村民、議会の協力支援が必要である。勇気をもって真実を語れという言葉が先輩からいただいた。この言葉が私の村政に対する責務と思っている。

(問) 5点の重点推進プロジェクトを掲げ青木村の未来に向けて、10年後の青木村の望ま

い姿についてどうか。

村長答弁

まずはコロナ感染症を克服する。143号青木峠のバイパスをつくり活用する。小・中学校を全2クラス化。健康寿命を延伸する。新時代創生である。青木村がもつと輝いて日本一住みたい村になると考えており、取り組んでいく。

(問) 国道143号関連で4点聞きたい。1点目は、バイパスによりアクセスが期待される。企業誘致PRが積極的な広報に至っていない事について。2点目は、土地利用に関する条例や計画は未作成である点について。3点目は、観光資源の発信や観光客の滞在時間を延ばすソフト面の対応と具体策について。4点目は、移住を考える住民が現在の風景が魅力的としている。明確な未来像を描く必要がある事について。

村長答弁

1点目について 工業適地は優良農地である。農業との調和、環境との調和、景観にも配慮しなければならない。先ずは、竹内製作所の操業開始に向けて取り組む。
2点目について 美しい村づくり条例を設置しているか、

規制等誘導策を策定して開発の個々について調整を図っていく。

3点目について 長野県の宿泊旅行の居住地は一位が東京都で二位は愛知県である。松本、安曇野地域に年間1千万人が来ているので青木村のPRをしていく。

4点目について 今ある村の維持が最も大切である。財政基盤の強化と調和のバランスを取り開発を見据えていく。

(問) コロナ禍におけるフードバンク事業と生理用品の無償配布事業についてどうか。

住民福祉課長答弁

フードバンク事業は社会福祉協議会が令和2年度に3回実施した。87世帯、249名に食料品等多岐にわたる日常品を届けた。民生委員の協力を得て事業に村も支援していく。

生理用品の無償配布については全国的な問題となっている。社会福祉協議会が四つばのクローバー事業として経済的困窮者への生理用品の配布事業をしている。老人センターで配布をしている。また、小・中学校にも配布した。状況確認を行いながら村としても必要な支援はしていく。



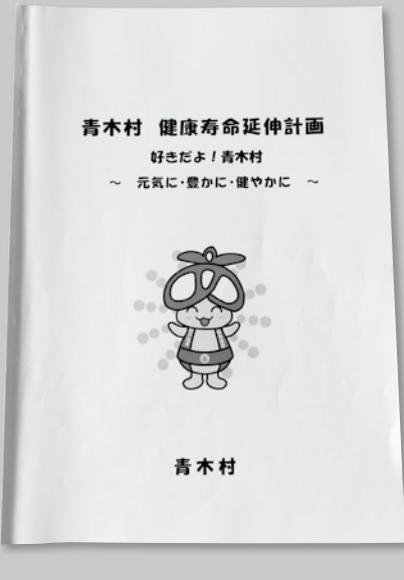
松澤 正登 議員



1、新型コロナウイルス感染症対策について 2、健康寿命延伸プロジェクトについて



コロナワクチン接種券及び接種証明証



令和2年3月に策定された
青木村健康寿命延伸計画書

1 65歳以上のコロナワクチン接種が終わった

(問) 総括しての感想は。

村長答弁

対象者1650人のうち1509人で接種率は91.5%となった。国が想定しているよりも高く、早くできたことで一安心しているのが実感だ。今回のことを通じて、行政全般であるが、課題に対して積極的に行動することが大切であることを、あらためて認識を職員共々にした次第だ。

(問) 接種後の日常生活のあり方は。

住民福祉課長答弁

接種後もマスクの着用、3密の回避、手洗い、咳エチケットと基本的な感染予防を引き続き行つたうえで、日常生活を行うことが必要だ。

(問) 64歳以下の接種の進め方は。

住民福祉課長答弁

基礎疾患を有する方の接種を優先的に進めるために、アンケート調査、意向調査を行っている。基礎疾患があり、ワクチンの接種を希望すると回答した方については、今後、接種券を送付する予定だ。それ以外の方について

は、県からのワクチンの供給状況、医療機関等の日程調整等を行つたうえで、実施体制を整えてまいりたい。

(問) 第3次補正地方創生交付金で「地域女性活躍推進交付金制度」があるが、村ではこの交付金を使った事業はあるか。

住民福祉課長答弁

現在のところ青木村での実施予定はない。

2 村民皆が元気で豊かに健やかに暮らせる村づくり

(問) 健康寿命延伸計画により推進されてきた村の成果は。

住民福祉課長答弁

策定から1年が経過した成果は、妊婦出産期における令和2年度妊婦届時の面接実施率は100%、妊娠中の飲酒率・喫煙率は0%、妊娠出産について満足している者の割合は90.9%と向上している。村民の皆さんに少しでも関心を持ってもらうように、広報誌に保健師だよりを毎月掲載して健康情報を発信している。今後も関係機関等と連携しながら取り組んでいく。

(問) ヤングケアラー問題、引きこもり家庭について取り組んでいることは。

教育長答弁

村では、お互いの顔が見えるという関係の中で、住民福祉課、保育園、小中学校、教育委員会の連携が取れており、定期的に連絡会議を開いて情報共有をしている。ヤングケアラー等の事案については児童相談所と連携を図っている。また、引きこもりをつくらないということが重要な施策であり、村では、インクルーシブ教育において、早期支援の重要性が示された。現在抱えている問題への丁寧な支援と、将来このような問題が起きないようにする予防的な対応の両面が重要と考えている。

(問) 人工透析患者を対象とした通院費補助がほしいが。

住民福祉課長答弁

他の市町村の状況等を参考にして今後の検討課題としたい。

(問) 緊急通報システムの設置要望について。

住民福祉課長答弁

高齢者世帯については、地域包括支援センターで様々な相談に応じている。必要と思われる方、設置希望がある場合は、職員に相談してほしい。端末設置に係る利用者負担はない。



坂井 弘 議員



- 1、新型コロナウイルス感染症の封じ込めに向けて
- 2、国道143号バイパス(青木峠新トンネル)開通を見通した村内周辺の道路整備ならびに交通安全策
- 3、青木村で暮らす社会的弱者への支援策

減速を促す路面標示



村道の危険箇所に必要な道路標識の設置を



急がれる国道の歩道取付工事の全線完了

1 新型コロナウイルス封じ込めに更なる支援を

- 住民福祉課長答弁** 高齢者への新型コロナウイルスワクチン接種の副反応の状況は、診療所において、一日数件の受診があった。
- 住民福祉課長答弁** 接種後アンケートを取ってはどうか。
- 住民福祉課長答弁** 検討している。
- 住民福祉課長答弁** 自主的・社会的PCR検査に助成をする考えはないか。
- 住民福祉課長答弁** 県方針による既存の制度を活用してほしい。
- 住民福祉課長答弁** 宿泊・飲食業支援策としての山梨モデルの活用は。
- 住民福祉課長答弁** 信州の安心なお店認証制度が開始された。
- 住民福祉課長答弁** 認証条件をクリアするための経費を助成する考えは。
- 住民福祉課長答弁** 国の動向を踏まえ、検討課題とする。
- 住民福祉課長答弁** 陽性者が隔離された場合の家族(要介護者や子ども)支援の体制は。
- 住民福祉課長答弁** 保健所が行っている。村には情報提供が一切ない。
- 住民福祉課長答弁** 新任住民福祉課長としての健康寿命延伸策は。

住民福祉課長答弁

- 特に高齢者の検診・予防支援に力を入れたい。
- 住民福祉課長答弁** 約束していた情報端末を利用しているの体操呼びかけは。
- 住民福祉課長答弁** 近々ラジオ体操を配信する。
- 2 村内道路の安全確保を**
- 建設農林課長答弁** 整備の進捗状況は。
- 建設農林課長答弁** 当郷地区の国道の歩道整備、取付村道の整備を進めている。
- 村長答弁** トンネル開通までに国道の歩道整備は全線完了するか。
- 建設農林課長答弁** 殿戸から森林組合まで測量することになっており、引き続き事業化される。
- 建設農林課長答弁** 道路整備の対応手順、ならびに、標識設置者は。
- 建設農林課長答弁** 村道は村、国・県道は県が管理者になっている。案内・警戒標識は管理者、規制標識は県の公安委員会が設置する。
- 建設農林課長答弁** 村道の制限速度、ならびに、規制をかける考えは。
- 建設農林課長答弁** 村道は規制標識がないので60km/h。規制するには住民の意見を聞く必要がある。
- 建設農林課長答弁** 県道豆石峠の丸子側道路

建設農林課長答弁

- 補修、修那羅峠の街灯設置を。道路補修は、整備促進期成同盟会を通じて要望する。街灯の設置は、交差点等が基本であり、峠の設置は難しい。
- 3 社会的弱者への支援を厚く**
- 教育長答弁** 特別支援学校に通学するお子さんへの支援は。
- 教育長答弁** 村内外の福祉施設に行政として支援をお願いし、困難を切り開くよう努力していく。
- 教育長答弁** フリースクール等に通学する不登校児への支援は。
- 教育長答弁** 昨年・今年、給食費無償化措置と同様の助成をした。その他の経費には対応していない。
- 教育長答弁** ヤングケアラーの状況把握・協力体制作りでは、小・中のほか高校との連携も視野に。指定難病・小児慢性特定疾病の患者さんへの支援は。
- 住民福祉課長答弁** 村内の指定難病患者は66名、小児慢性特定疾病患者は6人。県で行う支援に繋げている。
- 住民福祉課長答弁** 見舞金制度を設けている自治体が県内にいくつもある。
- 住民福祉課長答弁** 他の市町村の状況等を参考に、今後の検討課題とする。



平林 幸一 議員



- 1、村民の命と暮らしを守る新型コロナウイルス感染症対策の強化
- 2、雇用と人を守る取り組み
- 3、青木峠新トンネル整備事業の推進
- 4、農業の担い手確保と農地利用の取組み



R143 青木峠新トンネル青木側入り口（弘法地籍予定地方面）を臨む

1 村民の命と暮らしを守る新型コロナウイルス感染症対策の強化

- (問)** ①今コロナは感染力の強い変異株に置き換わり進み対策徹底が必要。ワクチン接種情報を含め村民への啓発について情報電話やインターネットによる動画配信等を提言する。
- ②集団免疫獲得の為にワクチン接種重要。今後の計画は。
- ③個人や中小事業者の収入減、雇用への影響の把握は。
- ④今後の支援対策事業費の見通しは。

住民福祉課長答弁

- ①現在情報電話のない世帯に課題がある。今後は情報を得にくい住民への情報発信の検討に際し小中校配付タブレット端末利用等含め検討したい。
- ②今後は基礎疾患、64歳以下の方への実施体制を整える。保育士、警察官、消防署員等其他地域での優先順位参考に進める。
- 商工観光移住課長答弁**
- ③持続化給付金は、6割が受給。観光業や飲食業は特に厳しい。
- ④国の地方創生臨時交付金や村の財政状況を考慮し引き続き支援対応していく。

2 雇用と人を守る取組み

- (問)** ①村の自主財源を増やす基盤作りを目指し企業強化支援は重要。中小企業のデ

ジタル変革に向けた企業強化支援は。

- ②テレワーク促進の為に補助制度創設しては。
- ③新たな成長発展企業誘致の考えはあるか。
- 商工観光移住課長答弁**
- ①事業者の経営方針やIT構築の考えを聞き支援を研究。
- ②現時点補助制度新設は困難。村内事業所の動向を把握し研究。

村長答弁

- ③企業誘致は高い壁がある。新たな成長発展企業の求めるニーズを把握する為、情報収集、村の魅力を情報発信し人と仕事が集まる村に努めたい。
- 3 青木峠新トンネル整備事業の推進**
- (問)** ①本事業目標完成時期は。

- ②課題とその解決策は。
- ③開通後の展望について。
- ④開通後の課題とその解決策は。

村長答弁

- ①現在詳細設計実施中で概ね一年間位、来年度以降残土処分地調査、用地測量、用地取得等に着手と推測。予算配分が大きな鍵、現時点完成時期不明。

- ②予算の確保について、国県に確保して戴く。村も同盟会で側面から協力。用地取得、残

土処分地は地元で十分説明し、理解と協力を戴き進める。

- ③松本・安曇野方面へのアクセス飛躍的向上し、通勤・通学圏内に、企業誘致、高度医療の受診、松本空港国際線化等。
- ④交通量増加に伴う交通安全、渋滞緩和、進捗に合わせ歩道整備、交通安全施策等進める。
- 4 農業の担い手確保と農地利用の取組み**

- (問)** ①中山間地域の農業環境は大変厳しい、担い手と課題の把握は。

- ②人・農地プラン実質化の取組み、その進捗は。
- ③担い手確保の取組みは。

建設農林課長答弁

- ①村の水田地帯は大規模農家と作業受託組合に集約が進み、畑地は山間部が多く高齢化、労働力不足で遊休荒廃地化が進んでいる。

- ②後継者、貸付・売却意向、担い手の3種類の地図を基に農地の集積、集団化、営農効率化向上のプラン策定済。今後これを実行して行く。

- ③現在新規就農を目指す3名が研修中。今後も首都圏等の潜在的農業人材の誘致、農地相談会等へ参加し、幅広い人材発掘、情報発信し候補者の支援、育成に取組んで行く。



塩澤 敏樹 議員



1、人権啓発について
2、高齢者の健康、生きがいづくりについて



2016年に3つの人権に関する法律が出された



再開した!! 筋力アップほぎほぎ教室

1 人権啓発活動の計画について

(問) 2016年に「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」が出されたが、多くの村民に周知されていないのが現状。
村として、あらゆる差別、村として、人権に関するチラシ配布、啓発の声かけ、研究会や懇談会または人権フェスティバルなどの啓発活動を行う計画があるか。

教育長答弁

青木小中学校で、様々な視点から人権教育を実施している。保護者を対象に人権講演会を毎年実施し、啓発に努めている。また子育てフォーラムや講演会などに組み込むことで、啓発活動ができていると考え、これからも継続していきたい。

(問)

人権に関する村民の現状、意識や課題、今後必要なことなどについての意向を把握し、分析するための人権に関する意識調査が、今まで行われていないが、行う計画はあるか。

村長答弁

本年度は青木村長期振興計画策定の年で、それに合わ

せ村民にアンケートの中で、人権に関する調査についても、重要度、満足度についても、他の施策と同様な調査を行う。

(問)

長期振興計画の中に、人権の項目を入れて、人権に配慮する村づくりを。

村長答弁

すでに現在の後期基本計画に入っている。あらゆる差別の撤廃、あるいは人権教育の指導者の拡大、人権感覚の啓発に提言をしている。アンケート調査の結果を踏まえたうえで、人権を尊重する村の姿勢を、計画の中にいかしていく。

2 コロナ禍における、高齢者の健康づくり、生きがいづくりについて

健康状態に変化はあるのか。

住民福祉課長答弁

健康教室がなくなって、筋力低下を感じている方もいるが、特に健康状態が悪化している状況ではない。筋力が低下しフレイル状態になることも懸念されるので、引き続き高齢者の健康状態について、様子を見ていきたい。

(問)

集まりやすい地区の公民館で、関係機関と連携しながら、健康づくり講座ができないか。

村長答弁

感染状況を注視しながら、健康講座の再開をしていきたい。また地区の公民館で少人数での健康・生きがいづくりのための、健康教室も検討していく。

(問)

簡単にできる、高齢者向けの「健康体操」づくりができないか。

住民福祉課長答弁

介護予防のために考案され、全国的に行われている「いきいき百歳体操」など体操を取り入れていくことも含め、今後検討していく。





松本 淳英 議員



- 1、新型コロナウイルスワクチン接種について
- 2、東山道に関連した歴史施設の日本遺産登録について
- 3、外国人旅行者対応
- 4、村税（法人税割）について
- 5、当郷岡石地区における企業誘致について



青木村の歴史と未来 東山道と岡石工業地区

1 新型コロナウイルスワクチン接種について

(問) 65歳以上の方で、ワクチン未接種である方への今後の対応は。

住民福祉課長答弁

未接種の方の中には接種を希望しない人もおり、希望をしている方には接種がほぼ終了したと考えている。未接種の方については、引き続き青木診療所において個別に接種をしていただく。

(問) 65歳未満の方の接種において、青木村の学校等の職員に接種を行う場合、村外在住者への接種は可能か。

住民福祉課長答弁

大きな前提として、青木村に住民票のある方が接種の対象となる。しかし村外の人にも接種は可能であり、相談に応じていきたい。

3・2 コロナ後の観光誘致策や外国人旅行者への対応

(問) 東山道を日本遺産に追加する動きもあったが、コロナ後を見据えた観光誘致策の目玉は何か。

村長答弁

東山道を日本遺産に追加する提案は、上田市とも連携をとってみたが実現に結び

つかなかった。今ある観光資源に付加価値を加え、情報発信を増やすことで観光誘致をしていきたい。

(問) 外国語を母国語とする程度の語学力を有する人を青木村で採用し、青木村の魅力

力を外国語で情報発信していく考えはないか。

商工観光移住課長答弁

予算の都合もあり、今いる職員や、道の駅にある音声翻訳機で対応していきたい。

(問) 村の関係する観光施設等で英語や中国語等の多言語表記をすすめる考えはあるか。

商工観光移住課長答弁

青木新トンネル等の状況を踏まえ、広域的な観光を見据え研究していきたい。

(問) 観光施設に自動翻訳機を配備する計画はないか。

商工観光移住課長答弁

携帯電話を使って翻訳もできるので、現在のところ計画はない。

5・4 岡石地区工業団地への企業誘致について

(問) 同地区への竹内製作所の進出を受けて、他の企業の進出の話はないか。

村長答弁

他の企業からも進出の打診は受けている。農業や環境との調和、交通量の問題等を考え、慎重に検討をしていきたい。

(問) 企業の誘致策として法人税をどのように設定しているか。

他の自治体より低い現在の法人税率を当面変更する予定はない。今後、財政状況を踏まえて総合的に判断していきたい。

(問) 企業誘致策として再生エネルギーの活用を図っていくことは。

青木村の自然環境から太陽光、水力、風力などの活用可能性がある。環境資源を生かす具体化する必要性があり、今後研究していきたい。

(問) 工場周辺にて交通量の増加が懸念されるが、その対応策は。

国道から工場地区に入る場所に右折帯を設置すること、国道から工場間の取付け道路を拡張すること、国道南側に歩道を整備することについて、関係者と協議をすすめている。

村長答弁



宮入 隆通 議員



1、誰もが暮らしやすい青木村について
2、村内を巡る仕組みについて



電動シェアサイクル・ピークルで脱炭素化と観光の両立を（写真は大町市のJapan Discovery Center）

1 誰もが暮らしやすい青木村にしよう

（問） いじめは子どもたちだけではなく、大人にもあるが事例や対応は。

教育長答弁

最近では、昨年度の新型コロナウイルス感染者に対する誹謗中傷が起きないようにするという対応で差別事案は起きなかつたと考えている。

（問） 多様性を認め合う社会のためにどのような考えを持っているか。

村長答弁

性別、年齢、職業、身体状況、国籍に関係なく誰もが互いの人権を認め合い、一人ひとりが個性や能力を十分に発揮できる男女共同参画社会でありたい。

（問） LGBTQプラスなどの同性カップルの方が村営住宅に入居することは可能か。

商工観光移住課長答弁

村営住宅入居資格に該当しないため、入居することはできない。

（問） 多様性を認める青木村ということだが、当事者にとってはまだ問題がある。同性婚や選択的夫婦別姓制度など、他の自治体では夫婦や家族の在り方について議論され

村長答弁

子育てを目的として男女が結婚するだけでははなく、人生をよりよく生きるための結婚は尊重されてもいいという時期に来ていると思うが、まだ法律上の課題もある。

（問） 同性婚や事実婚のパートナーシップ制度の導入について検討が必要な時期だと考えるか。

村長答弁

パートナーシップ制度については承知している。民法などを含めた法整備を期待したい。

2 脱炭素化と両立しながら村内を巡る仕組みをつくる

（問） コロナ禍の状況における観光客の行動分析は。

商工観光移住課長答弁

キャンプ場、昆虫資料館、宿泊施設の状況などから大幅に観光客は減少している。

（問） そばに加えて、カフェ巡りも観光になる。村内を巡るための仕組みが必要だが。

商工観光移住課長答弁

滞在型の観光や村内を巡る仕組みが必要だ。

（問） 観光面でも脱炭素化を強く打ち出していく必要がある。電動シェアサイクル・

ピークルによる脱炭素化と観光の両立ができないか。

商工観光移住課長答弁

その両立はこれからの時代のキーになる。村内を巡る仕組みづくりを研究したい。

村長答弁

最近では目的をもって観光する傾向があるので、他の地域との対応もしていく必要がある。

（問） コロナ後も見据えたフルデマンドバスと観光客を結びつける仕組みが必要だが。

総務企画課長答弁

土日運行・車両・運転手の確保など課題がある。

（問） フルデマンドバスの当日予約の要望があるが。

総務企画課長答弁

予約は前日の夕方5時までだが、臨機応変に対応している。改善が必要な部分については順次検討していく。

（問） バスの乗り降りに苦労している高齢者がいるが。

総務企画課長答弁

昨年度導入した車両は、ステップや手すりを配備しており、高齢者等の利用に配慮した仕様だ。古い車両の更新の際には、より安全に乗り降りができることを第一に検討する。

議会の動き



上田地域 広域連合議会臨時会

5月24日丸子自治センターにおいて上田地域広域連合議会臨時会が開催されました。

今回の臨時会では、青木村及び坂城町議会選出議員の交代の報告があり、青木村選出議員は、広域連合議会の総務委員会副委

員長に金井とも子議員、保健福祉委員会に松澤正登議員が選任されました。

臨時会議案は、北村政夫青木村長の副連合長への再任と任期満了に伴う公平委員会委員への横関政史氏の選任について、また上田中央消防署救助工作車と川西消防署災害対応特殊救急自動車購入について等であり、いずれも承認されました。

臨時会後開催の全員協議会では、ごみ処理広域化計画の改訂（第4次計画）、資源循環型施設建設環境影響評価配慮書に係る説明会開催につ

いての報告、令和5年度からの広域計画策定について説明がありました。

（金井とも子）



7月6日に行われた上田地域広域連合議会議員の上小管内視察(青木村)

青木村及び上田市 共有財産組合議会 臨時会

さる、5月28日に令和3年第1回臨時会が開催されました。

議題は、青木村議会からの選出議員の交替によるもので、提出された案件は、

- 一、議長の選出
- 二、監査委員の選任

についての2件で、青木村議会から議長に沓掛計三議員、監査

委員に坂井弘議員が選任されました。

その他には、塩澤敏樹議員と平林幸一議員が新たに選任され、青木村からは4名の議員が就任しております。

議題以外では、常設委員から組合林の管理状況の説明と、事務局より、今年度の事業状況や令和3年度から令和7年度までの財産組合共有林の森林造成事業計画の説明がありました。

（沓掛 計三）



生ごみ削減のため、竹チップ・竹パウダーが活用されている

青木村議会日誌



5月

- 7日 / 臨時議会
- 10日 / 上田地域広域連合議会代表者会議(議長)
- 13日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 24日 / 上田地域広域連合議会臨時会(正副議長)
- 26日 / 例月監査(監査委員)
- 27日 / 全員協議会
- 28日 / 青木村及び上田市共有財産組合議会臨時会(財産組合議会議員)

6月

- 1日 / 長野県町村議会議長臨時総会(議長)
- 2日 / 議会運営委員会(議会運営委員)
- 9日 / 第2回定例議会
- 9日 / 全員協議会
- 11日 / 議会一般質問
- 15日 / 議会審議採決
- 15日 / 全員協議会
- 15日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 16日 / 大樹会役員会(議長)
- 29日 / 例月監査(監査委員)
- 30日 / 農業再生協議会総会(正副議長)

7月

- 6日 / 上田地域広域連合議会管内視察(正副議長)
- 8日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 16日 / 議会報編集委員会(議会報編集委員)
- 20日 / 全員協議会
- 27日 / 上田地域広域連合議会管内視察(正副議長)
- 29日 / 例月監査(監査委員)

8月 今後の予定

- 18日~25日 / 決算審査(監査委員)
- 27日 / 例月監査(監査委員)
- 31日 / 長野県監査委員研修会(監査委員)



住民の声



今思うこと

若林 崇弘

中山間地域であるわが地域では20年ほど前にくらべ人口が激減し高齢者世帯の割合が増えています。

人口減少や少子高齢化社会の進行により住み慣れた集落で暮らし続けることが難しくなりつつあります。

この先、先祖代々過ごしてきた地域を守り、住民が安心して希望を持ち将来にわたり暮らしにける青木村にしていくには、住民と行政がどこまで本気で考えられるかではないでしょうか。

仕事が集まる都市部に人が密集し、自然や人との結びつきを犠牲にして勤勉に働き続け、あるいはモノやカネの豊かさばかりを追い求めるという働き方・暮らし方はコロナ禍により生活スタイルが激変し、大きな転換期を迎えているのではないのでしょうか。

生き方自体を見つめ直し、憧れだった田舎でのんびり暮らしたいと考える人が首都圏を離れ、自然豊かな地方移住への注目度が増した昨今、「東部町と北御牧村」、「長門町と和田村」、「上田市・丸子町・真田町・武石村」とそれぞれ平成の大合併をして現在に至っていますが、自立の道を選択した青木村は、他の行政機関よりきめ細かな住民サービス(対応)が出来ているのは間違いありません。

全国誌の日本一住みたい村のランキングで毎回上位に選ばれている青木村ですが、村民ひとりひとりが誇りを持ち、移住希望者から注目される存在でいたいのです。

編集後記



新しい編集委員のメンバーで取り組む議会報ですが、初めての作業は6月に発行した議会報号外になります。選挙にて投票が行われる場合のみ選挙公報は発行されますが、無投票の場合は発行されません。そこで選挙公報に載せる予定だった原稿を元を議会報として発行しました。各議員がこの4年間をどのように活動するか村民の皆さんに対して約束するものです。ご覧いただき関心のあることなどをもとにして議員と話し合ってみるのも村政に参加していることになると思っています。開かれた議会を目指して、分かりやすい紙面にしていくことを心掛けて参ります。(T・M)

議会報編集委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 宮入 隆通 |
| 副委員長 | 塩澤 敏樹 |
| 委員 | 松本 淳英 |
| | 平林 幸一 |
| | 坂井 弘 |
| | 松澤 正登 |